

【保育実践論文(ソニー幼児教育支援プログラム) 審査講評】
2023年度 最優秀園
国立大学法人福井大学教育学部附属幼稚園

遊びの中で出会う様々な対象を「好き」になり、その先の探究の世界をひらくことを「科学する心」と定義し、「好き」を自分なりに広げていくことに注目した、質の高い研究です。製作することが大好きな一人の子どもの「ロケットを飛ばしたい」という願いから、子どもの中の「好き」が、周囲にも多様な形で広がり、その子自身の中でもさらに広まっていく様子が、記録と共に丁寧に述べられています。

実体のない「宇宙」を想像し、自分たちで「宇宙研究所」というベースとなる空間を作り出すことで、宇宙への「愛」がさらに膨らんでいきます。学年が上がってもなお、宇宙団子（泥団子）、プラネタリウム作り、宇宙探査機の製作など、多様な形に変化し、子どもたちそれぞれの「好き」が繋がり合うことで、さらなる探求的な遊びへと展開していました。

その背景には、遊びを支える保育者の援助、環境構成が欠かせません。保育者は、子どもたちの遊びに共感し、寄り添うための時間や環境を用意するだけでなく、H3ロケットの打ち上げ日に合わせ、宇宙研究所にモニターを設置してみんなでライブ中継を見たり、プラネタリウムを訪れて、想像とリアルな体験を結びつけたりしています。こうしたさまざまな援助の工夫が論文にわかりやすく示されており、他園の参考なることから高く評価されました。

「科学する心」と「愛」という言葉が結びつく論文は、大変ユニークです。宇宙をテーマにした事例に関わる保育者全員が、子どもへの愛と、宇宙への愛に溢れていることが伝わります。今後も子どもの「好き」に着目した貴園の独創的な実践を重ねていかれることを願っています。